

# 隨泉寺寺報

平成22年(2010年)4月号 第476号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季永代経法要

講師 本立寺住職 朝枝暁範師

講題 『音と声の響き』

■永代経 ～浄土に還られた方々をしのぶ行事～《先祖のご恩を偲ぶ》

浄土真宗における「永代経」とは「永代読経」の略であり、「未来永代、末永く釋尊の説かれた真実の教えである経が読み続けられ、その経が聞き続けられ、その教えに救済され続けられる」ことを願い勤まる法要です。

多くの場合、自分に先立ち浄土に還られた方(先達・先祖)を憶念し、先達が聞き大事にしてこれた経(教)を今を生きる私も頂こう、そして未来永代子々孫々にその経(教)を伝えようという願いのもと勤まるわけです。

先達・先祖を御縁にするというかたちをとりますので、「永代経は先祖への永代の追善供養」という認識が強いですが、浄土真宗における「永代経」は、「先達・先祖を御縁として私が経(教)を頂き未来永代に伝える」ということが本義となります。

今回の御講師の朝枝先生は私の高校の先輩で、高校時代憧れの人でした。勉強は出来るし先生方の信頼も厚い、その上まじめときているのですからお手上げです。楽しみにしています。誘い合わせてお参りください。

## 12月の法座予定

- 4月11日……………掃除 平原西
- 4月14日昼席午後1時より……………春季永代経法要
- 4月14日夜席午後7時より……………出張法座 平原西集会所
- 4月15日朝席午前10時より……………春季永代経法要 仏婦総会 おとき
- 4月15日昼席午後1時より……………春季永代経法要
- 4月15日昼席終了後より……………門信徒会役員総会
- 5月 2日午後6時より……………門信徒会本部役員会

## ☆ 修徳仏教婦人会総会

4月15日朝席終了後修徳仏教婦人会の総会を開催します。平成21年の行事報告ならびに決算、平成22年度の行事予定などを審議されます。誘い合わせてご参加ください。また今年は婦人会の結成50周年を迎えます。記念行事も何かしたいと思いますが、庫裏の修復があるのでそれがすんでから一緒に考えたいと思います。いい案があれば提案してください。

## ☆ 門信徒会役員総会

同じく4月15日昼席終了後門信徒会の役員総会を開催します。役員の方はご参集ください。今年は役員改選期になりますのでご多用のことと思いますがよろしくお願いたします。

## ☆ 幸せな時間をありがとう

穏やかで、家族を心から大切にしてくれた夫でした。

夫が高校の同級生と「ナイスシックスティークラブ」として自然環境を守るボランティアを始めたのは、定年退職した六十歳のときでした。川の清掃や山の手入れ、ゴミの収集などさまざまな活動をしてきました。病気を抱えての活動はたいへんだったと思います。社会貢献への強い意志で、活動を続けておりました。夫の母親や息子の家族とともに活動に参加した日々は、家族のかけがえのない思い出として残り続けることでしょう。



桜に対する思いが深く、瀬野川カントリー倶楽部では、家族全員の名前を入れて桜の木を植樹したことがありました。

今年の桜を見られない夫のために、ご友人が届けてくださった桜の花や、孫が描いた桜の絵…。花便りが届くより先に、夫へのあたたかい心遣いがいっぱいになったその部屋で、夫 雅征は平成二十二年三月二十三日、六十七才の生涯を閉じました。病と闘う夫を支え、温かく見守ってくださった皆様に、夫に代わり深く感謝申し上げます。



平成二十二年三月二十四日

広島市安芸区中野四丁目五十五番十二号

衷主 迫 美智子  
長男 迫 憲 司

法名 釋亮雅 俗名 迫 雅征 平成22年3月23日往生 行年68歳

## ☆御礼

特 懇志 金 貳拾萬円 院号法名 一心院釋威徳 俗名 故馬場 一司殿

## 4月

### 釈迦は慈父

### 弥陀は悲母なり

『推信砂文意』（註釈版聖典 713 貫）

「信心一つで、浄土に往生する身に定まる」といいます。確かにその通りですが、考えてみますと、阿弥陀仏が私たちに救いたいという願いを起こされ、釈迦仏が阿弥陀仏の願いを經典で説かれたから、私たちに往生の道が開けたといえます。

このことを指して、「釈迦は慈父 弥陀は悲母なり」といいます。

とはいっても、私たちは、釈尊の説法である經典を読んで、阿弥陀仏の願いを信じ念仏するようになるというよりも、現実には、さまざまな縁に恵まれて念仏する身にさせていただいたと思われま

す。親鸞聖人は、今月の言葉に続いて、われらが父、母である釈迦仏、弥陀仏がさまざまな方便（さまざまな形や方法）でもって信心を示されたと述べられます。（『唯信砂文意』『註釈版聖典』七一三頁）つまり、聖人をはじめ、私たちが念仏する身になったことも釈迦仏、弥陀仏のはたらきであると窺える言葉です。

親鸞聖人は、法然聖人に対する思いを次のように詠われます。

こう劫多生のあひだにも

出離の強縁しらざりき

本師源空いまさずは

このたびむなしく すぎなまし（『註釈版聖典』 五九六頁）

何度も生まれ変わり死に変わりしても、仏のさとりを開く縁はありませんでした。もし法然聖人（源空聖人）がいらっしゃらなかつたら、念仏の教えにあうこともなく、この度の生も仏への道を進むことができず、空しく終わっていたでしょうと詠われます。

親鸞聖人は比叡山で二十年間修行をされましたが、十分な成長をあげられませんでした。二十九歳の聖人は新たな道を求め、六角堂に百日間参龍されました。それから、法然聖人を訪ねられ、百日間教えを聞かれました。そこで、念仏の教えに帰依し、法然聖人の門弟になられました。

この和讃は、親鸞聖人が七十六歳のときにつくられています。聖人は四十七年前を振り返られ、法然聖人のおかげで仏道が開けたことを、大きなよろこびと感謝の気持ちで詠われています。

念仏の教えに出会う縁は、人それぞれです。親鸞聖人のように、法然聖人との劇



的な出遇いが縁になることもあります。

悲しみを縁とすることもあれば、たまたま聞いた法話が縁となることもあります。

また、心の依りどころを求めていたことが縁になることもあります。縁はいろいろですが、「釈迦は慈父 弥陀は悲母なり」といわれるようなはたらきがあったのかもしれない。

### 「何点でもよかたい」

日本経済新聞の生活特集『子どもと育つ』に元マラソンランナー松野明美さん（熊本県出身、ソウル五輪女子1万メートル出場、現在はタレント、41歳）の子育て記事が掲載されていた。

これより新聞記事一

▼ 長男を産んで1年後、次男はダウン症だった。心は大きく揺れた。「当時はダウン症という言葉すら知らなかった。長男の輝仁（きらと、6）は私の母親の家に預けることが多く、寂しい思いをさせた」

「でも輝仁は小学1年生になり、元気で足が速い。身軽で、転んでもぱっと立ち上がる。学校のサッカークラブで活躍している。弟とおしゃべりが出来なくて、自分と異なることに、もどかしさもあつたようだが、2008年にテレビ番組で弟のことが何回か放映され、徐々に障害についてわかってきたようだ」

▼ ダウン症を他人に知られることには抵抗があつた。「人生の負けという意識があつたので、知られちゃいかんと隣人にも子どもの姿を見せなかった。タレントのイメージも崩れてしまうと心配した。つらかつた。でもテレビ番組で明らかにしてからは、本当に人生が楽になった」「健太郎は春から保育園に っている。友達に囲まれて、嫌いな生野菜も食べるようになるなど、驚くほど変化している。入園前はストローを使えなかったのに、保母さんから『使って飲んでい』と伝えられて、びっくり。周りの友達の真似をしているようだ。ある女の子は掃除嫌いだったのに、健太郎が入園してからはお手本を見せるように、ふき掃除をするようになったという。健太郎は助けられると同時に、周りに良い影響を与えていると保母さんが話していた」

▼ 障害者が自立できる社会制度を整えるため、動こうと考えている。「健太郎はおむつを外せないし、脱ぎ着もゆっくりだ。いつになったらおむつを外せるか。専門家の先生は10年かかる場合もあるという。私は思った。あきらめの気持ちで10年過ごすより、子どもと一緒に頑張つて生きようと。その方が人間としての生きがいにつながる」「人生観も変わった。以前は英語だ。スイミング教室だと、他人に負けないように子どもを育てることばかり頭にあつた。今は比較に惑わされず、なぜか心がゆったりしている。『こどもは何点でもよかたい』という気持ちだ。」「色々有りましたが、今は次男を産んで良かった、と思っています」—新聞記事終わり

